

図 10 医師供給数の推計結果

表 3 医師供給数の推計結果

シナリオ	2014年実績値	2022年	2025年	2035年	2050年
Aパターン	309,355	335,575	346,989	376,609	403,264
Bパターン		335,575	346,425	365,753	377,500
Cパターン		335,575	346,711	374,944	399,568
Dパターン		335,575	346,656	374,713	399,077
Eパターン		335,575	346,331	373,331	396,129

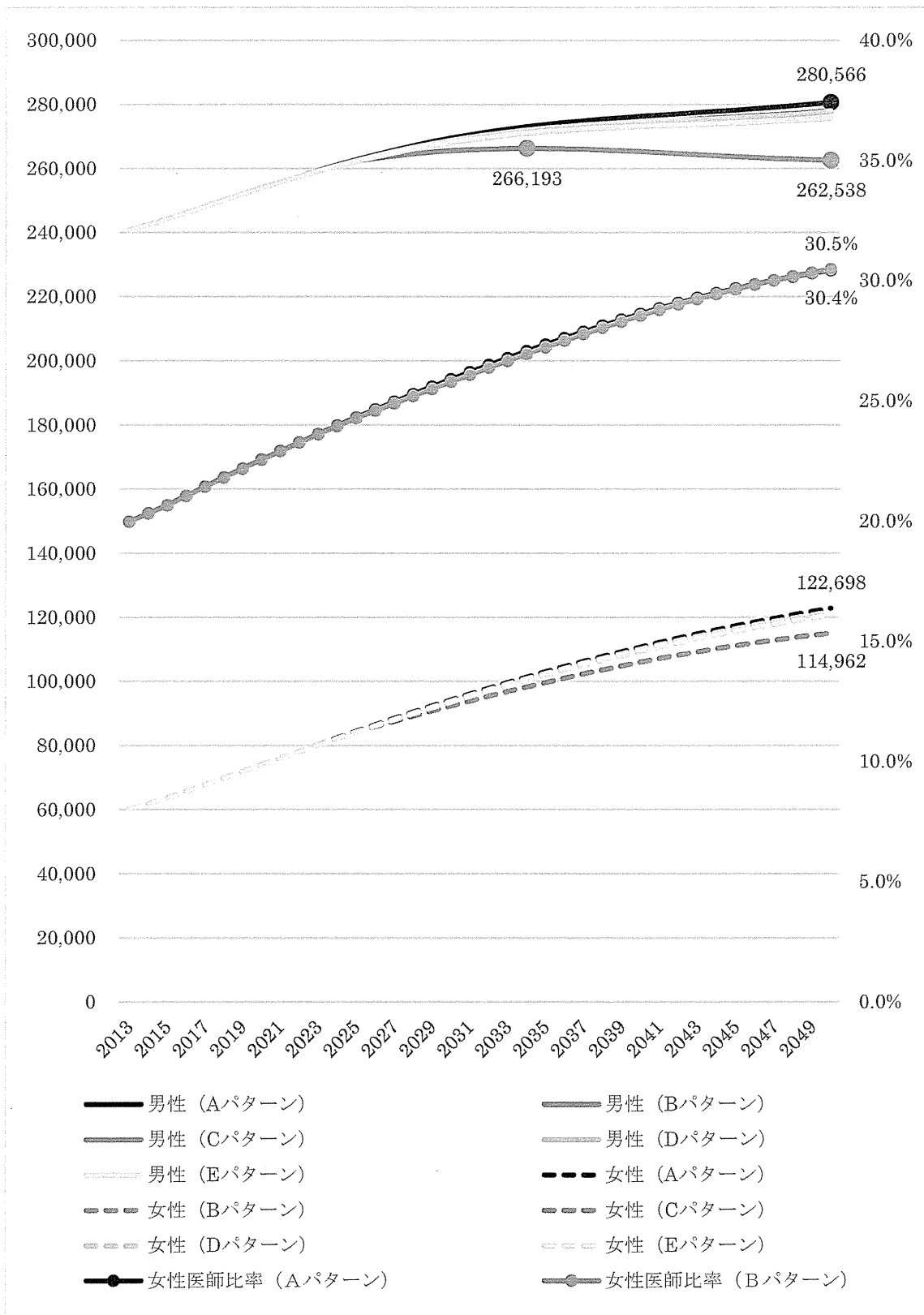


図 11 男女別の医師供給数の推計結果

表 4 男女別の医師供給数の推計結果

	2014年 実績値	2022年	2025年	2035年	2050年
男性 (A パターン)	247,699	257,502	262,692	273,679	280,566
男性 (B パターン)	247,699	257,502	262,311	266,169	262,538
男性 (C パターン)	247,699	257,502	262,504	272,523	277,982
男性 (D パターン)	247,699	257,502	262,467	272,362	277,638
男性 (E パターン)	247,699	257,502	262,247	271,400	275,578
女性 (A パターン)	63,504	78,072	84,297	102,930	122,698
女性 (B パターン)	63,504	78,072	84,114	99,584	114,962
女性 (C パターン)	63,504	78,072	84,207	102,421	121,587
女性 (D パターン)	63,504	78,072	84,189	102,351	121,439
女性 (E パターン)	63,504	78,072	84,084	101,931	120,551
女性医師比率 (A パター ン)	20.4%	23.3%	24.3%	27.3%	30.4%
女性医師比率 (B パター ン)	20.4%	23.3%	24.3%	27.2%	30.5%
女性医師比率 (C パター ン)	20.4%	23.3%	24.3%	27.2%	30.2%
女性医師比率 (D パター ン)	20.4%	23.3%	24.3%	27.3%	30.4%
女性医師比率 (E パター ン)	20.4%	23.3%	24.3%	27.3%	30.4%

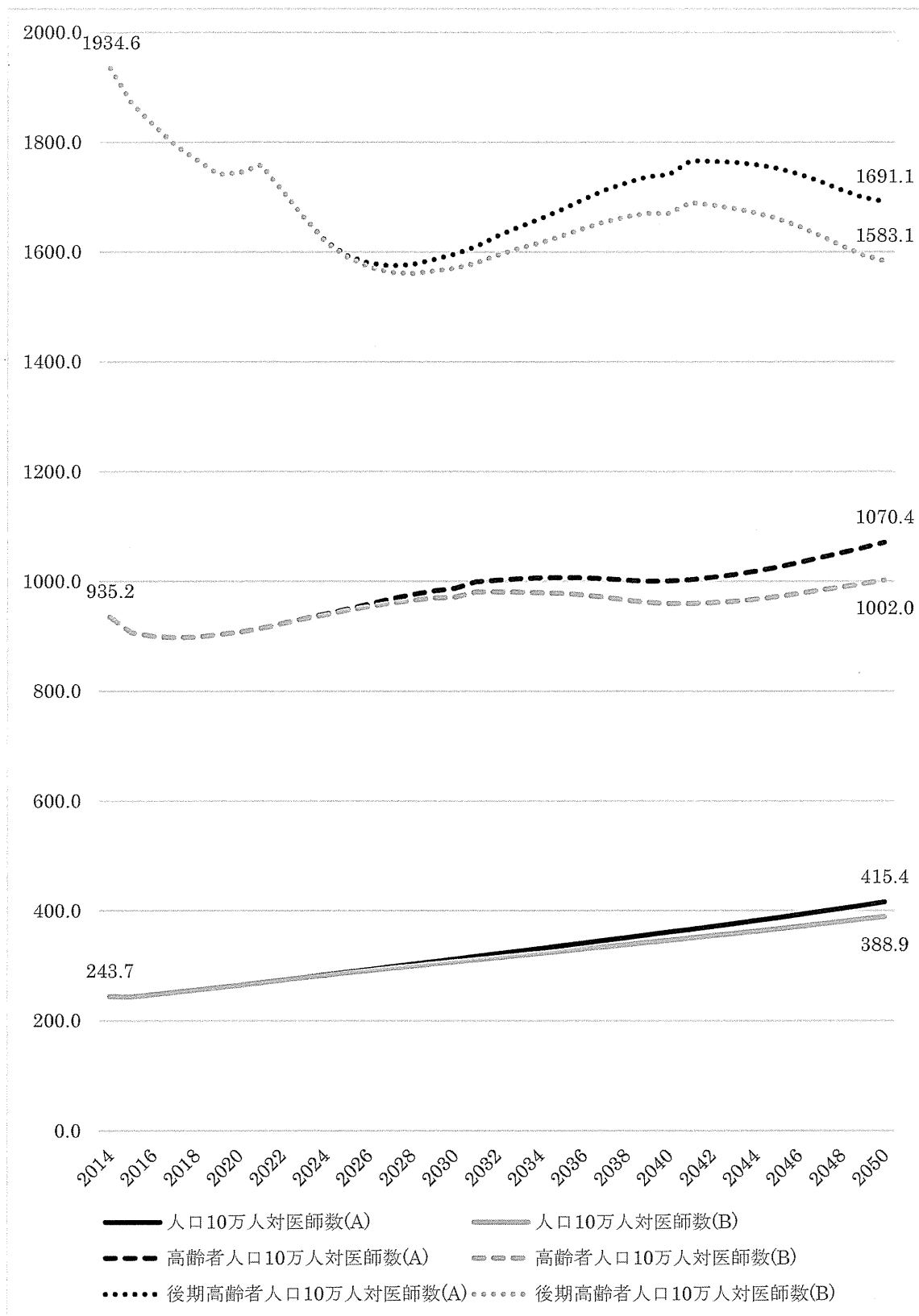


図 12 人口対医師供給数の推移

表 5 人口対医師供給数の推移

	2014年 実績値	2022年	2025年	2035年	2050年
将来推計人口（千人）	126948.8	122813.3	120658.8	112123.6	97075.8
将来高齢者人口（千人）	33079.7	36356.3	36573.5	37407.2	37675.7
将来後期高齢者人口（千人）	15990.4	19620.2	21785.6	22454.4	23846.2
人口 10 万人対医師数(A)	243.7	273.2	287.6	335.9	415.4
人口 10 万人対医師数(B)	243.7	273.2	287.1	326.2	388.9
人口 10 万人対医師数(C)	243.7	273.2	287.3	334.4	411.6
人口 10 万人対医師数(D)	243.7	273.2	287.3	334.2	411.1
人口 10 万人対医師数(E)	243.7	273.2	287.0	333.0	408.1
高齢者人口 10 万人対医師数(A)	935.2	923.0	948.7	1006.8	1070.4
高齢者人口 10 万人対医師数(B)	935.2	923.0	947.2	977.8	1002.0
高齢者人口 10 万人対医師数(C)	935.2	923.0	948.0	1002.3	1060.5
高齢者人口 10 万人対医師数(D)	935.2	923.0	947.8	1001.7	1059.2
高齢者人口 10 万人対医師数(E)	935.2	923.0	946.9	998.0	1051.4
後期高齢者人口 10 万人対医師数 (A)	1934.6	1710.3	1592.7	1677.2	1691.1
後期高齢者人口 10 万人対医師数 (B)	1934.6	1710.3	1590.2	1628.9	1583.1
後期高齢者人口 10 万人対医師数 (C)	1934.6	1710.3	1591.5	1669.8	1675.6
後期高齢者人口 10 万人対医師数 (D)	1934.6	1710.3	1591.2	1668.8	1673.5
後期高齢者人口 10 万人対医師数 (E)	1934.6	1710.3	1589.7	1662.6	1661.2

医師供給数の推計

2015年12月10日

千葉大学 予防医学センター
千葉大学医学部附属病院 地域医療連携部
藤田伸輔

1

取得したデータ

- 医師・歯科医師・薬剤師調査
 - 医師票4,533,298レコード
(1972年～2012年調査分)

- 医籍登録番号・医籍登録年一覧
 - 日本人517,545レコード 外国人7,897レコード
(1871年～2015年登録分)

- 上記2つの調査について、医籍登録番号を利用してひも付けし、重複の削除等データの整理を行った

データの整理（医師・歯科医師・薬剤師調査）

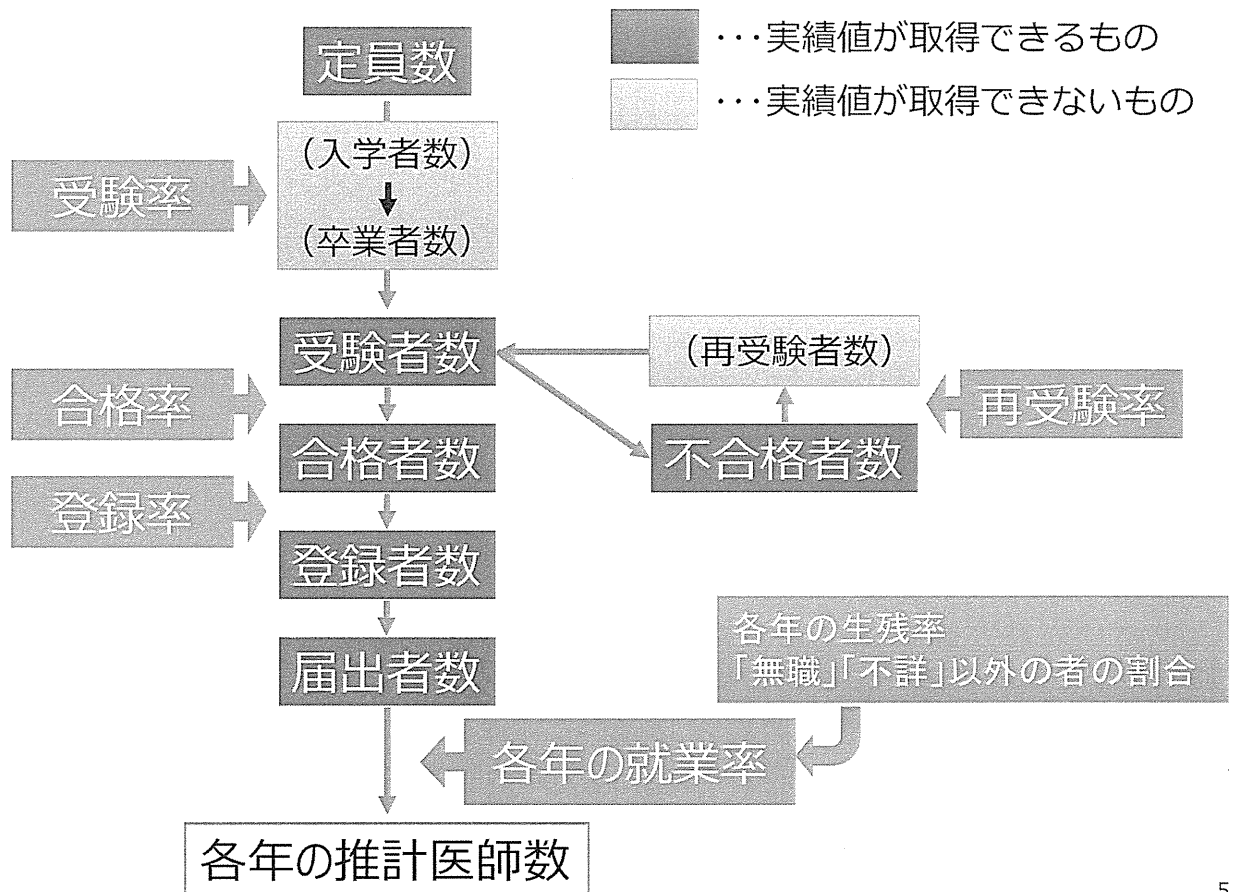
	レコード数	重複数	読込数(重複排除後)	重複割合
1972年	125,302	918	124,384	0.733%
1974年	128,455	846	127,609	0.659%
1976年	134,934	854	134,080	0.633%
1978年	142,984	902	142,082	0.631%
1980年	156,235	892	155,343	0.571%
1982年	167,952	942	167,010	0.561%
1984年	181,101	1,038	180,063	0.573%
1986年	191,346	1,039	190,307	0.543%
1988年	201,658	1,059	200,599	0.525%
1990年	211,797	1,156	210,641	0.546%
1992年	219,704	940	218,764	0.428%
1994年	230,519	0	230,519	0.000%
1996年	240,908	256	240,652	0.106%
1998年	248,611	9	248,602	0.004%
2000年	255,792	0	255,792	0.000%
2002年	262,687	0	262,687	0.000%
2004年	270,371	0	270,371	0.000%
2006年	277,927	0	277,927	0.000%
2008年	286,699	4	286,695	0.001%
2010年	295,049	2	295,047	0.001%
2012年	303,268	3	303,265	0.001%

2000年以降、重複等のデータの不備はほぼなくなっている。

3

推計方法と パラメータのこれまでの傾向

推計のフローについて



5

推計パラメータの設定について

受験率 → **受験率 = 受験者数 / 6年前の入学定員数**

2006～2015年の受験者の受験率(2000年～2009年の入学者に対する割合)の中央値が維持されるものと仮定

⇒ 100.4% ※定員超えの入学者数分や、留学、留年など遅れて受験する学生がいるため、100%を超えている

再受験率 → **再受験率 = 既卒の受験者数 / 前年の不合格者数**

2006～2015年の受験者の再受験率(2005年～2014年の不合格者に対する割合)の中央値が維持されるものと仮定

⇒ 99.3%

合格率 → **合格率 = 合格者数 / 受験者数**

2006～2015年の受験者の合格率の中央値が維持されるものと仮定

⇒ 新卒：93.9% 既卒：58.3%

6

推計パラメータの設定について

登録率

登録率 = 医籍登録者数 / 合格者数

2006～2015年の合格者の医籍登録率の中央値が維持されるものと仮定

➡ 100.2% ※留学や帰化などで遅れて登録する者がいるため、100%を超えている

各年の生残率

生残率 = 登録後年数別の届出者数 / 医籍登録者数

2002～2012年の医師・歯科医師・薬剤師調査の医師届出票における生残率(各登録後年数別の医籍登録者に対する割合)の中央値を利用

各年の就業率

就業率 = 生残率 × (業務の種別が「無職」「不詳」以外の届出者数 / 全届出者数)

2002～2012年の医師・歯科医師・薬剤師調査の医師届出票における業務の種別で「無職」「不詳」と回答した者を除いた割合の中央値を利用

➡ 生残率と就業率は登録後年数により変動する

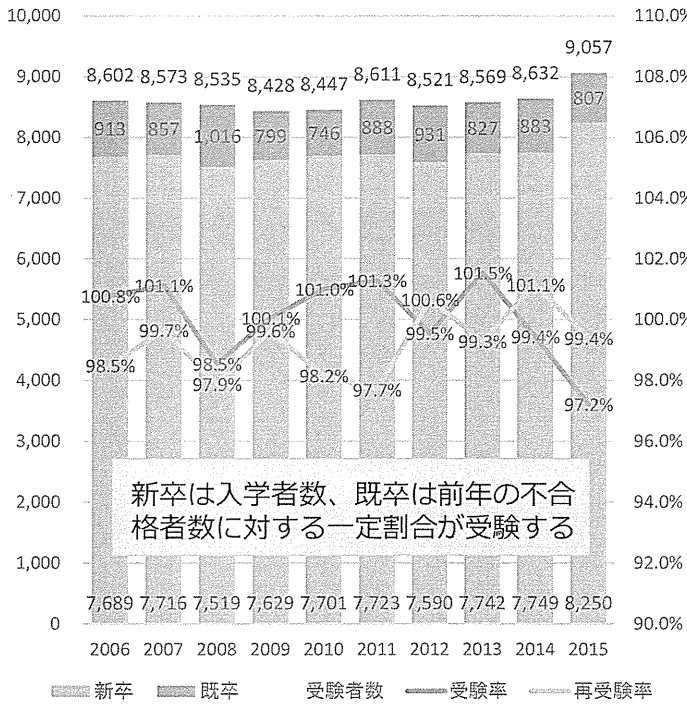
7

男女比率の設定について

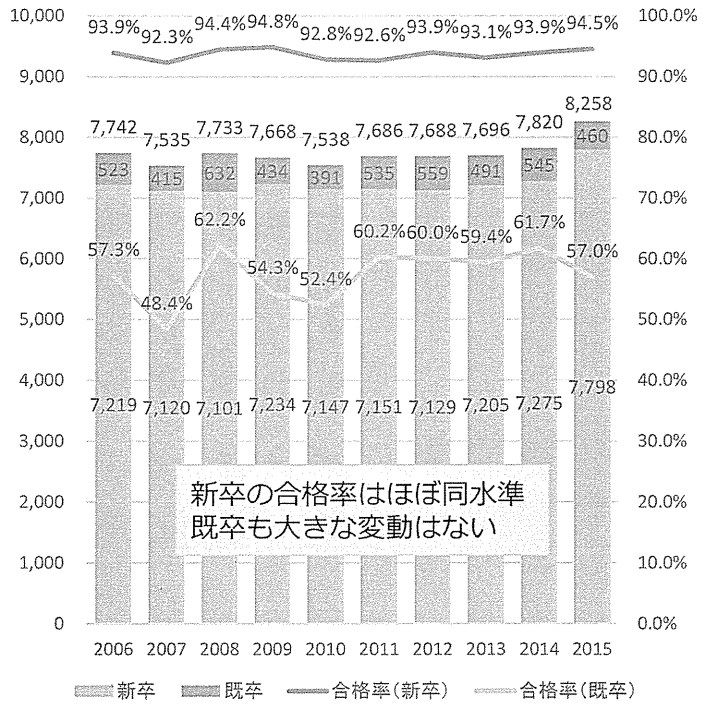
- 以下のパラメータについては、男女別に設定している
- 将来推計分については、過去の男女別のデータから明らかな増加・減少のトレンドがないと判断し、直近10年間のデータの中央値が維持されるものとして推計している
 - 受験者数男女比： 2006年～2015年受験者
 - 合格率： 2006年～2015年受験者
 - 医籍登録率： 2006年～2015年登録者
 - 医籍登録後年数別生残率： 2002年～2012年医師・歯科医師・薬剤師調査
 - 医籍登録後年数別就業率： 2002年～2012年医師・歯科医師・薬剤師調査

受験率（再受験率）・合格率の推移

受験者数・受験率の推移



合格者数・合格率の推移

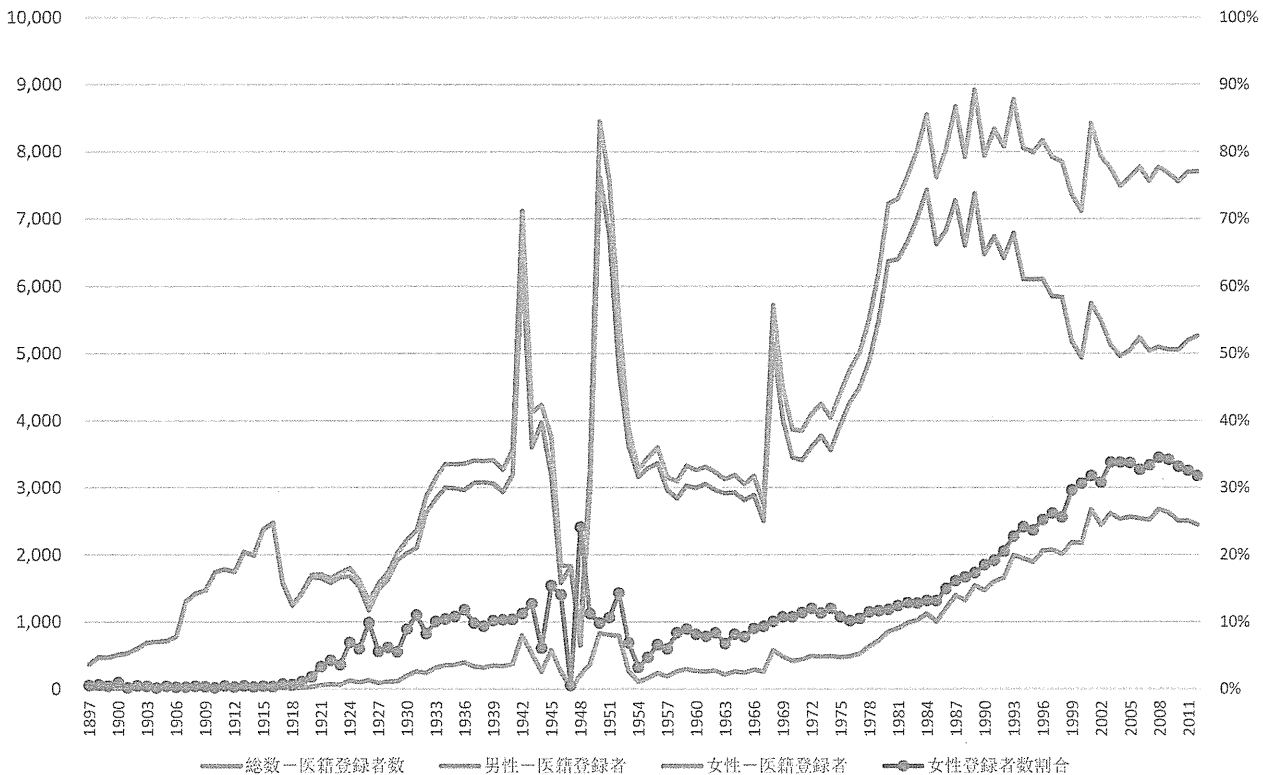


※2006年の新卒者数は2000年入学者数と対比させている。

医籍登録者数の推移

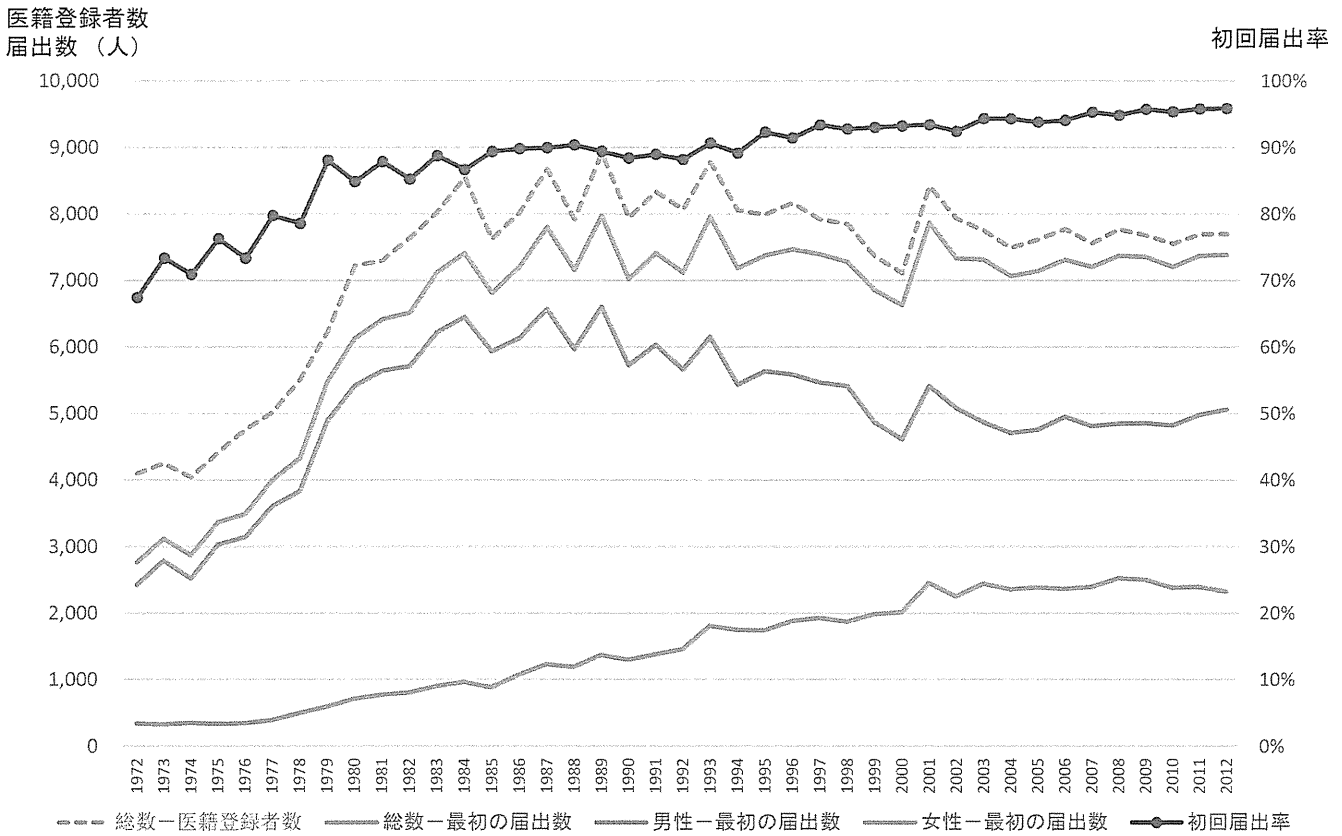
医籍登録者数(人)

女性登録者割合



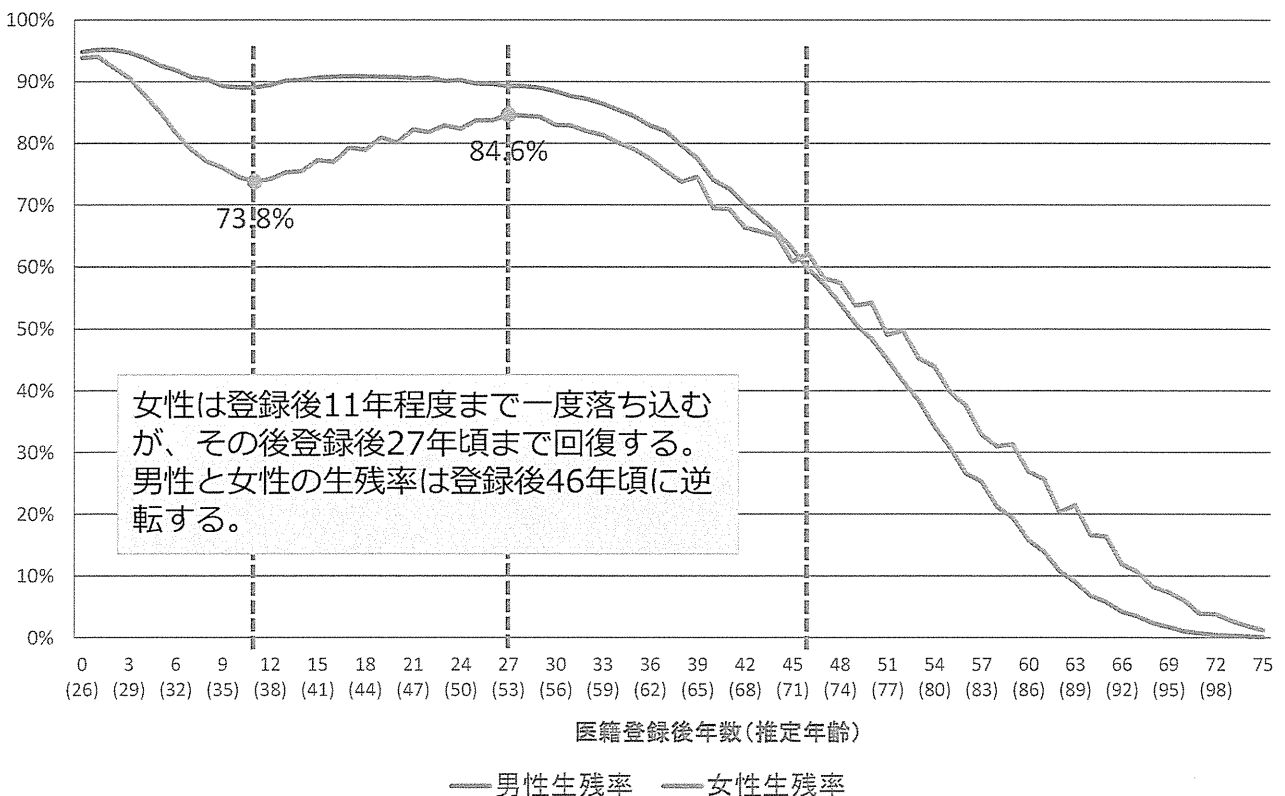
※1972年～2012年の医師・歯科医師・薬剤師調査（医師届出票）および厚生労働省から提供された医籍登録データを利用して作成

医師届出票届出者数の推移



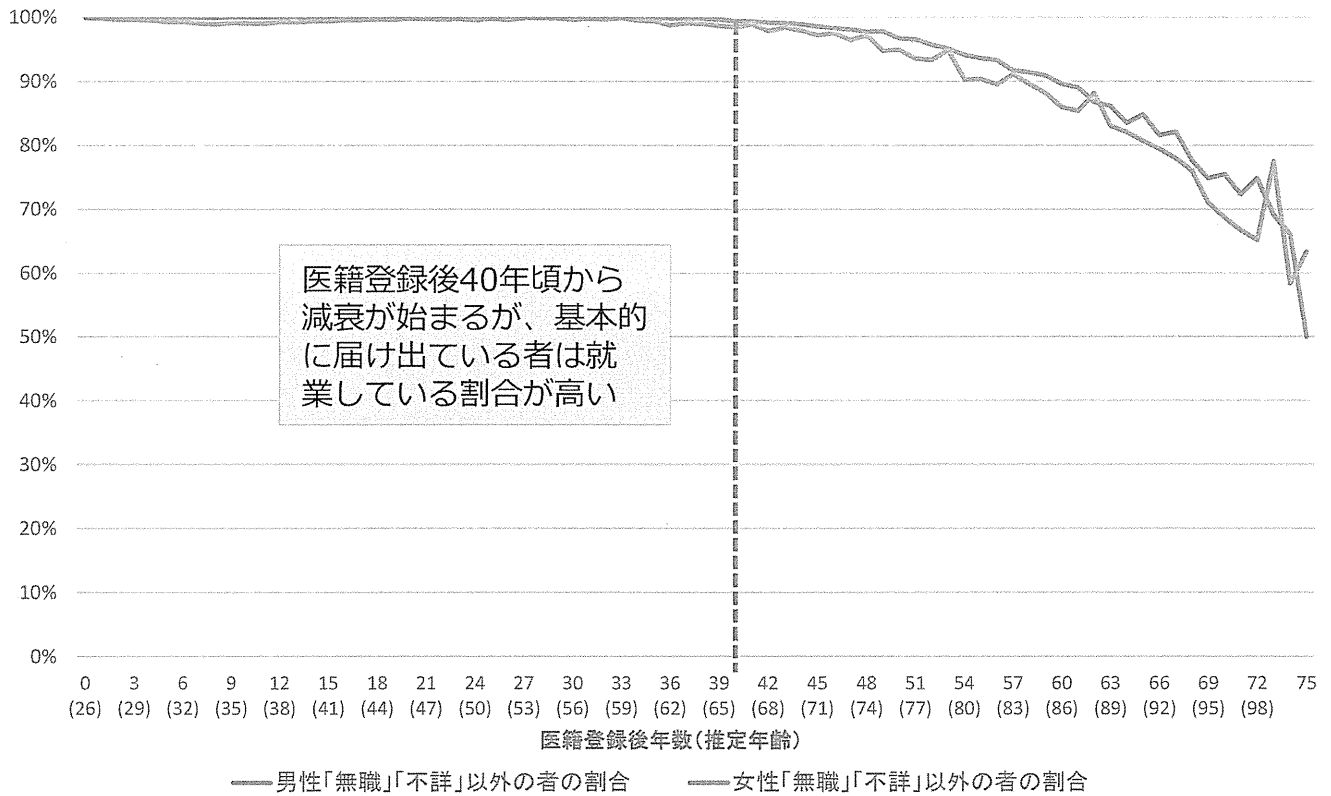
※1972年～2012年の医師・歯科医師・薬剤師調査（医師届出票）および厚生労働省から提供された医籍登録データを利用して作成

医籍登録後年数別の生残率



※2002年～2012年の医師・歯科医師・薬剤師調査（医師届出票）および厚生労働省から提供された医籍登録データを利用して作成
※推定年齢は医籍登録後年数が0年の届出票の満年齢(12月末時点)の平均値が26.8歳であることを考慮し設定

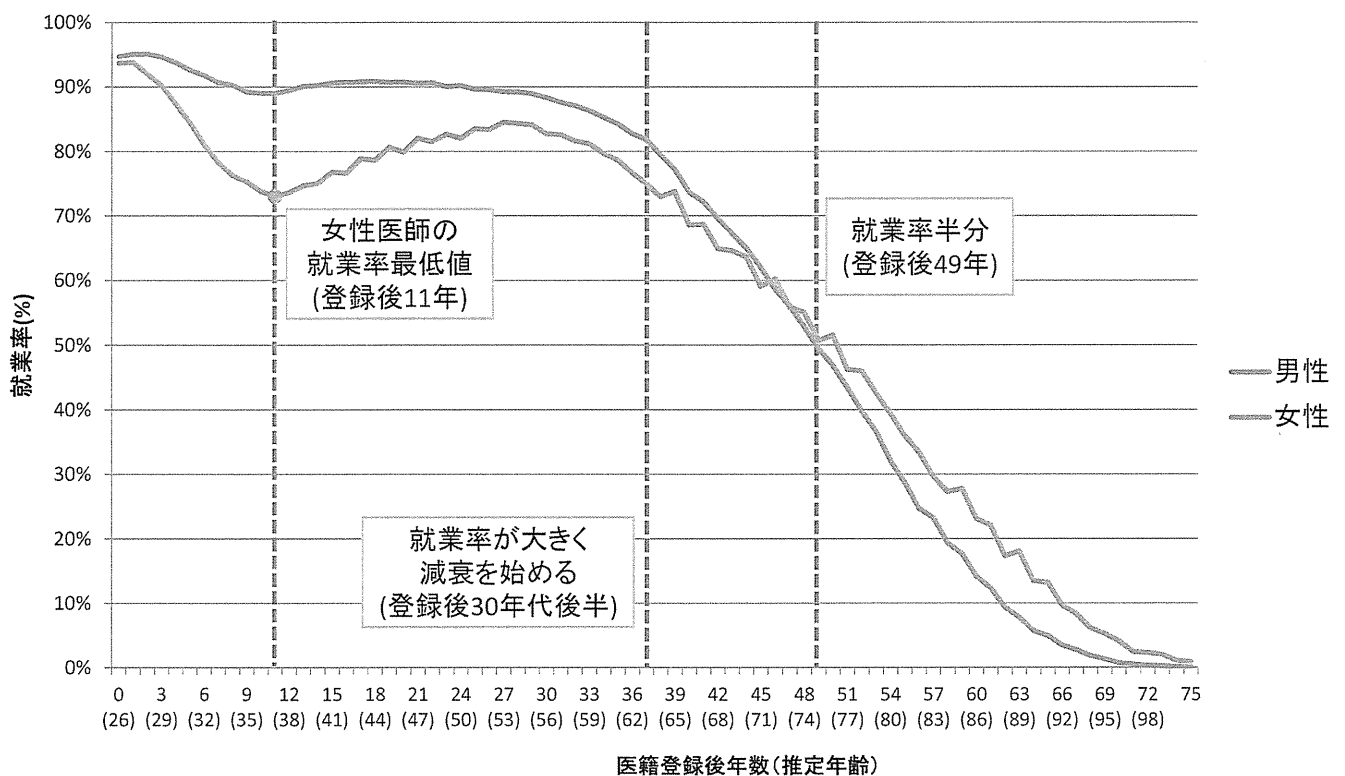
医籍登録後年数別の「無職」「不詳」を除いた割合



※2002年～2012年の医師・歯科医師・薬剤師調査（医師届出票）および厚生労働省から提供された医籍登録データを利用して作成
 ※推定年齢は医籍登録後年数が0年の届出票の満年齢(12月末時点)の平均値が26.8歳であることを考慮し設定

13

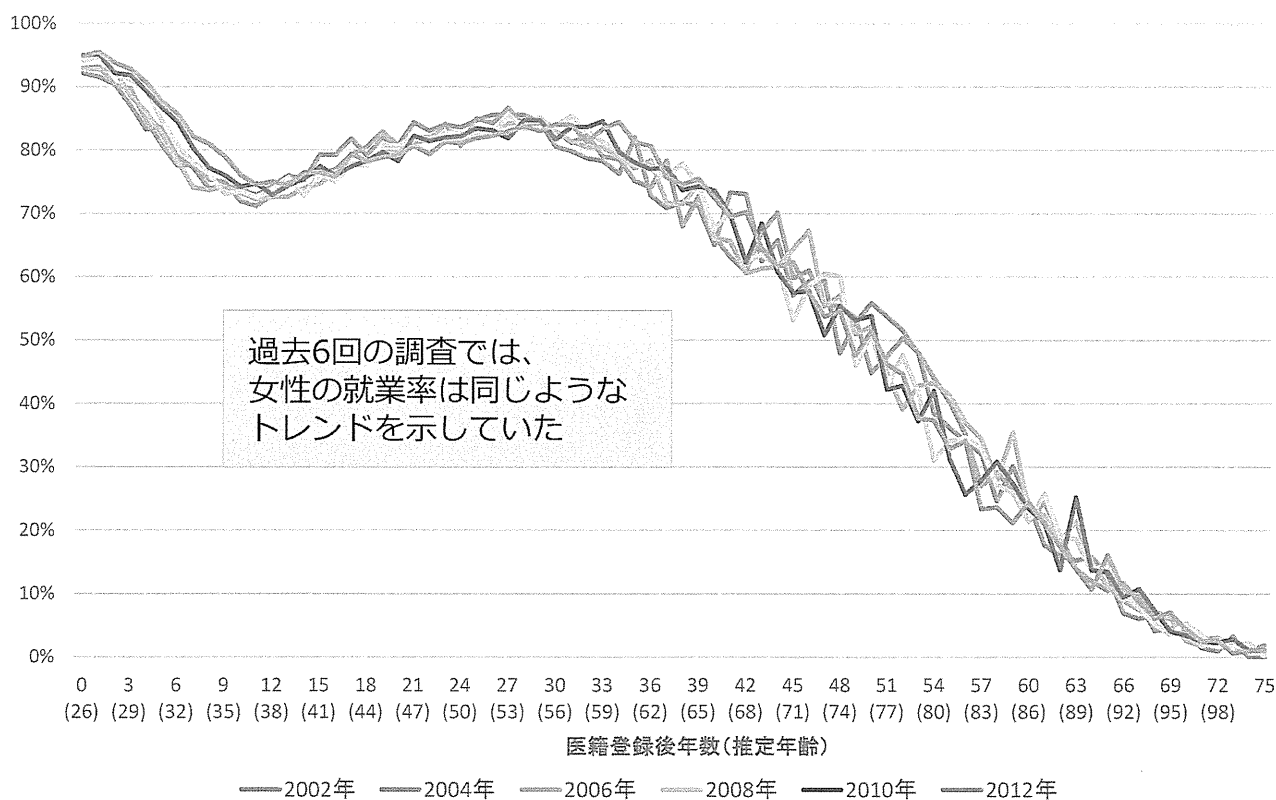
医籍登録後年数別の就業率



※2002年～2012年の医師・歯科医師・薬剤師調査（医師届出票）および厚生労働省から提供された医籍登録データを利用して作成
 ※推定年齢は医籍登録後年数が0年の届出票の満年齢(12月末時点)の平均値が26.8歳であることを考慮し設定

14

女性の就業率の推移



※2002年～2012年の医師・歯科医師・薬剤師調査（医師届出票）および厚生労働省から提供された医籍登録データを利用して作成
 ※推定年齢は医籍登録後年数が0年の届出票の満年齢(12月末時点)の平均値が26.8歳であることを考慮し設定

医師供給数の推計結果

シナリオの設定について

2008年・2009年からの医学部臨時定員は2017年まで、
2010年からの医学部臨時定員は2019年までで終了とされているが、2018年以降の定員について2つのシナリオを設定した

※2016年の医学部定員数は臨時定員を含め9,262名となる見通し

2017～2019年の追加の臨時定員の人数は未定だが、2011～2016年の平均である52名ずつ増加するものと仮定

Aパターン

臨時定員を今後も維持する

2017年：9,454名 2018年：9,506名

2019年：9,558名 2020年～2029年：9,558名

Bパターン

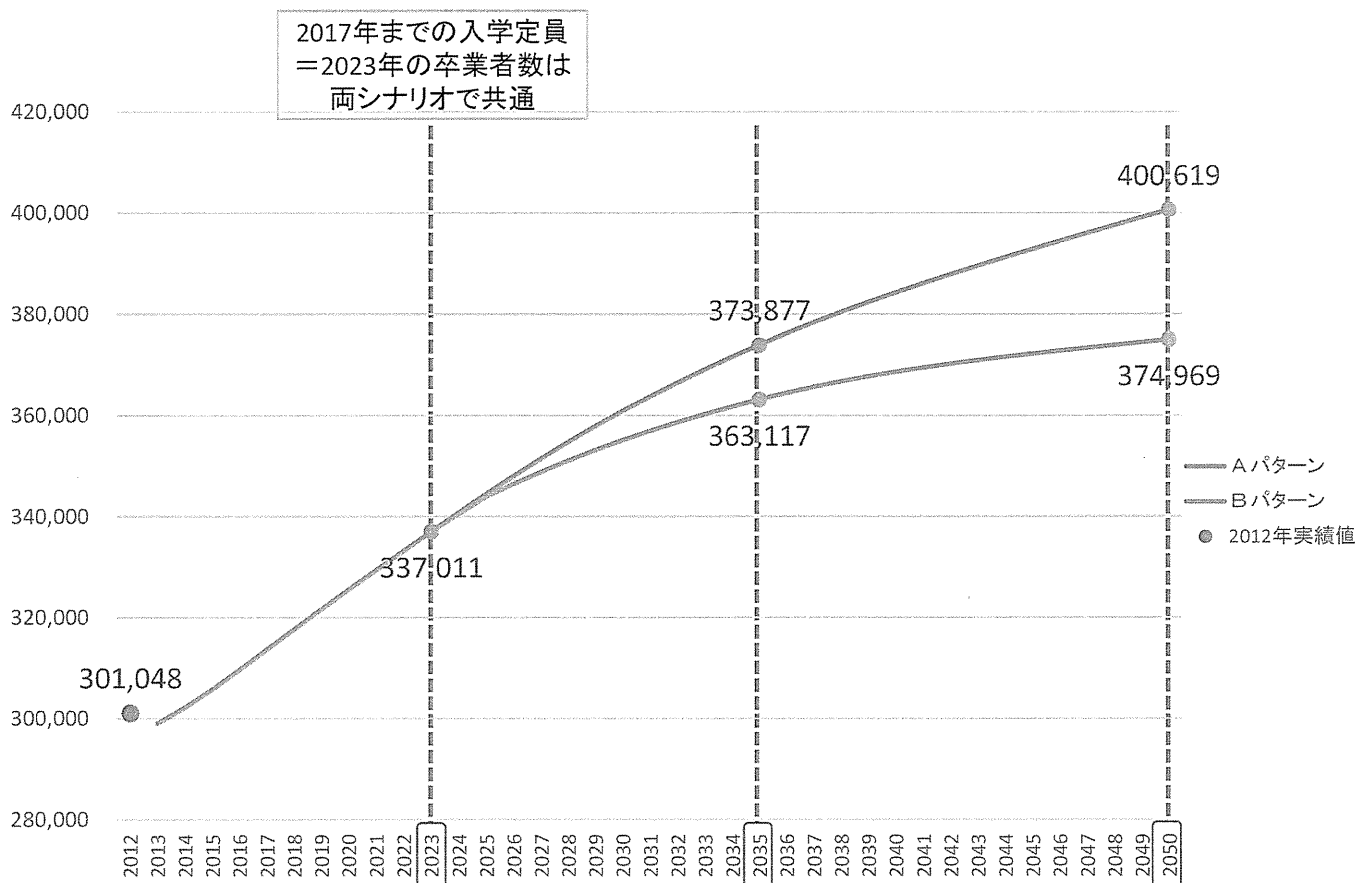
臨時定員は2017・2019年でそれぞれ終了し、
その後は恒久定員分のみ維持する

2017年：9,454名 2018年：9,189名

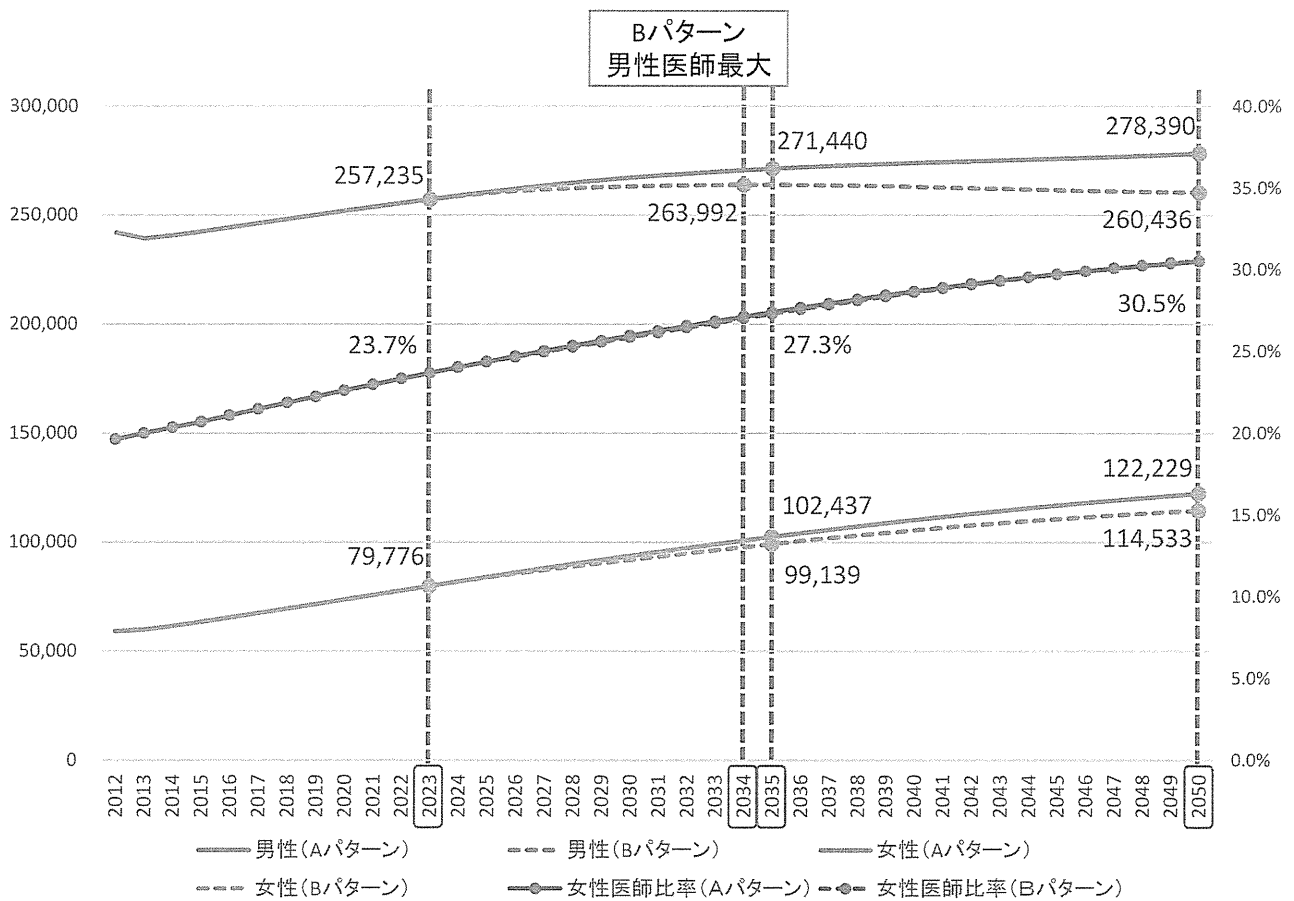
2019年：9,241名 2020年～2029年：8,409名

17

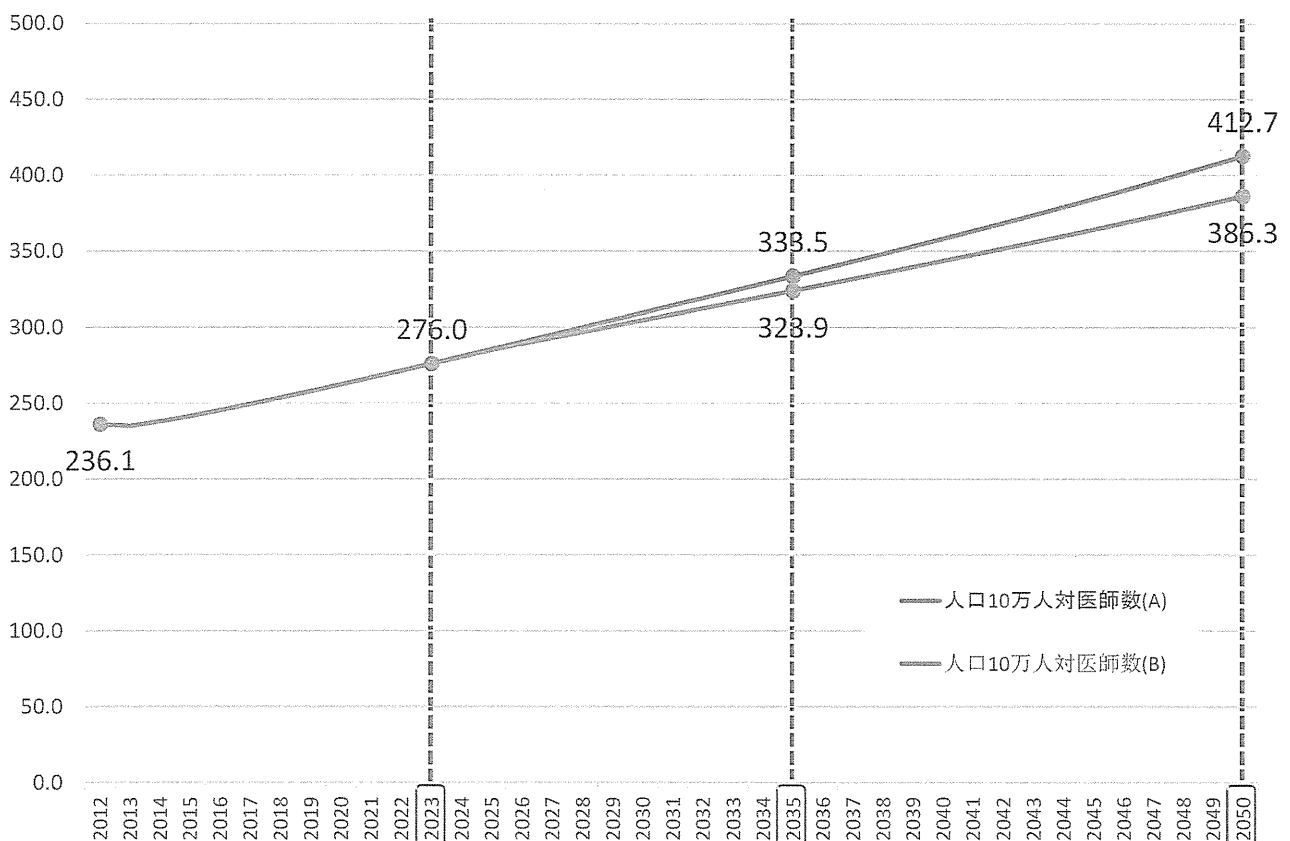
医師供給数の推計結果



医師供給数の推計結果



人口対医師供給数の推計値の推移



医師の需給推計について

※ 今回の需給推計の位置付けについて

- ・今回の需給推計は、第3回医師需給分科会(前回)までの議論(専門家から提示された方法論を含む。)を踏まえ、一定の仮定・前提の下に厚生労働省が推計した結果を、たたき台として議論のために供するもの
- ・このため、本推計については今回の議論も踏まえ、必要な見直しを行っていく
- ・今後、各都道府県が策定する地域医療構想等を踏まえ、更なる推計の見直しを行う

本日の内容

1. 医師の供給推計について
 - (1) 供給推計の方法
 - (2) 女性医師等の仕事量

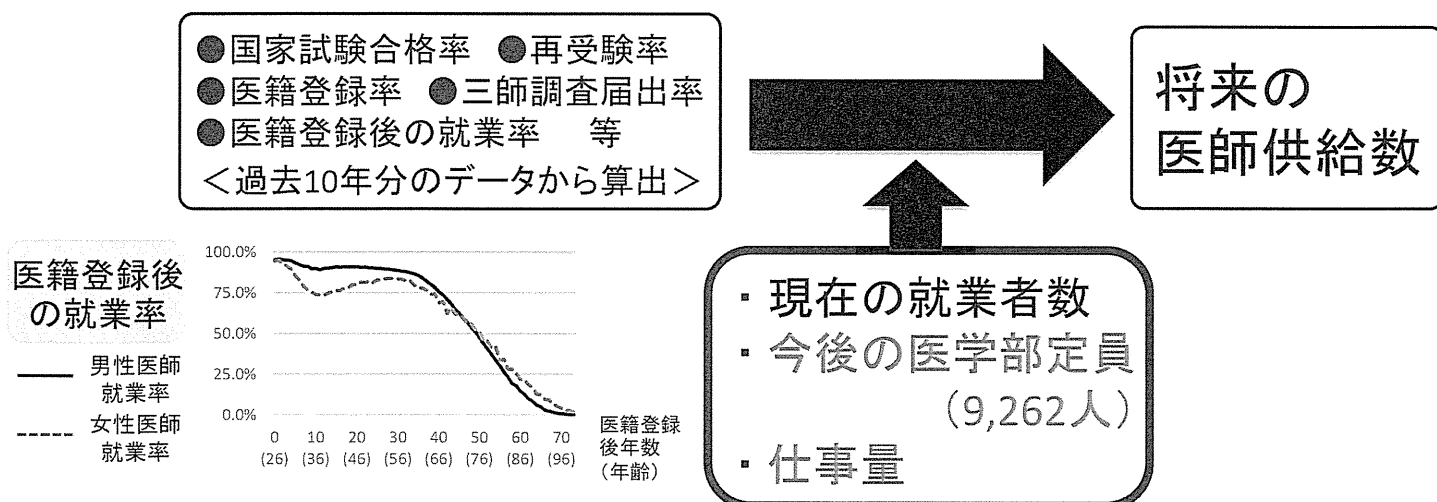
2. 医師の需要推計について
 - (1) 臨床に従事する医師
 - (2) 臨床以外に従事する医師

3. 医師の需給推計について

1. 医師の供給推計について

医師の供給推計方法

- 供給推計の方法については、第1回医師需給分科会と同様の方法とする。
- 今後の医学部定員を平成28年度の9,262人として推計を行う。
- 女性医師・高齢医師・研修医の労働時間、経験や技術の違いを考慮すべきではないか、というご意見があったため、これらを仕事量として勘案する。



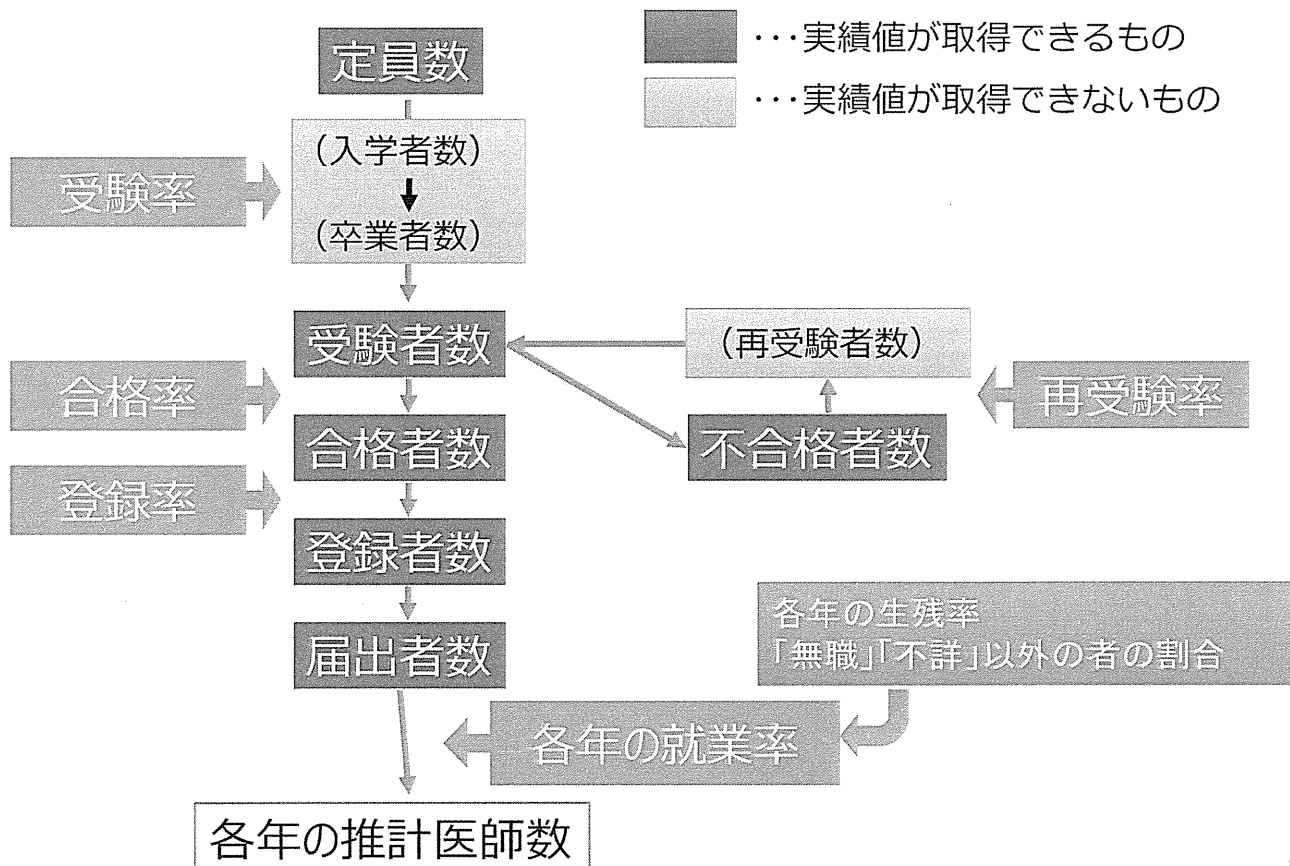
1. 医師の供給推計について

(1) 供給推計の方法

(第1回医師需給分科会の推計方法)

平成27年12月10日 第1回医師需給分科会 資料5

推計のフローについて



推計パラメータの設定について

受験率

受験率 = 受験者数 / 6年前の入学定員数

2006～2015年の受験者の受験率(2000年～2009年の入学者に対する割合)の中央値が維持されるものと仮定

→ 100.4%

※定員超えの入学人数分や、留学、留年など遅れて受験する学生がいるため、100%を超えている

再受験率

再受験率 = 既卒の受験者数 / 前年の不合格者数

2006～2015年の受験者の再受験率(2005年～2014年の不合格者に対する割合)の中央値が維持されるものと仮定

→ 99.3%

合格率

合格率 = 合格者数 / 受験者数

2006～2015年の受験者の合格率の中央値が維持されるものと仮定

→ 新卒：93.9% 既卒：58.3%

6

推計パラメータの設定について

登録率

登録率 = 医籍登録者数 / 合格者数

2006～2015年の合格者の医籍登録率の中央値が維持されるものと仮定

→ 100.2%

※留学や帰化などで遅れて登録する者があるため、100%を超えている

各年の生残率

生残率 = 登録後年数別の届出者数 / 医籍登録者数

2002～2012年の医師・歯科医師・薬剤師調査の医師届出票における生残率(各登録後年数別の医籍登録者に対する割合)の中央値を利用

各年の就業率

就業率 = 生残率 × (業務の種別が「無職」「不詳」以外の届出者数 / 全届出者数)

2002～2012年の医師・歯科医師・薬剤師調査の医師届出票における業務の種別で「無職」「不詳」と回答した者を除いた割合の中央値を利用

→ 生残率と就業率は登録後年数により変動する

7

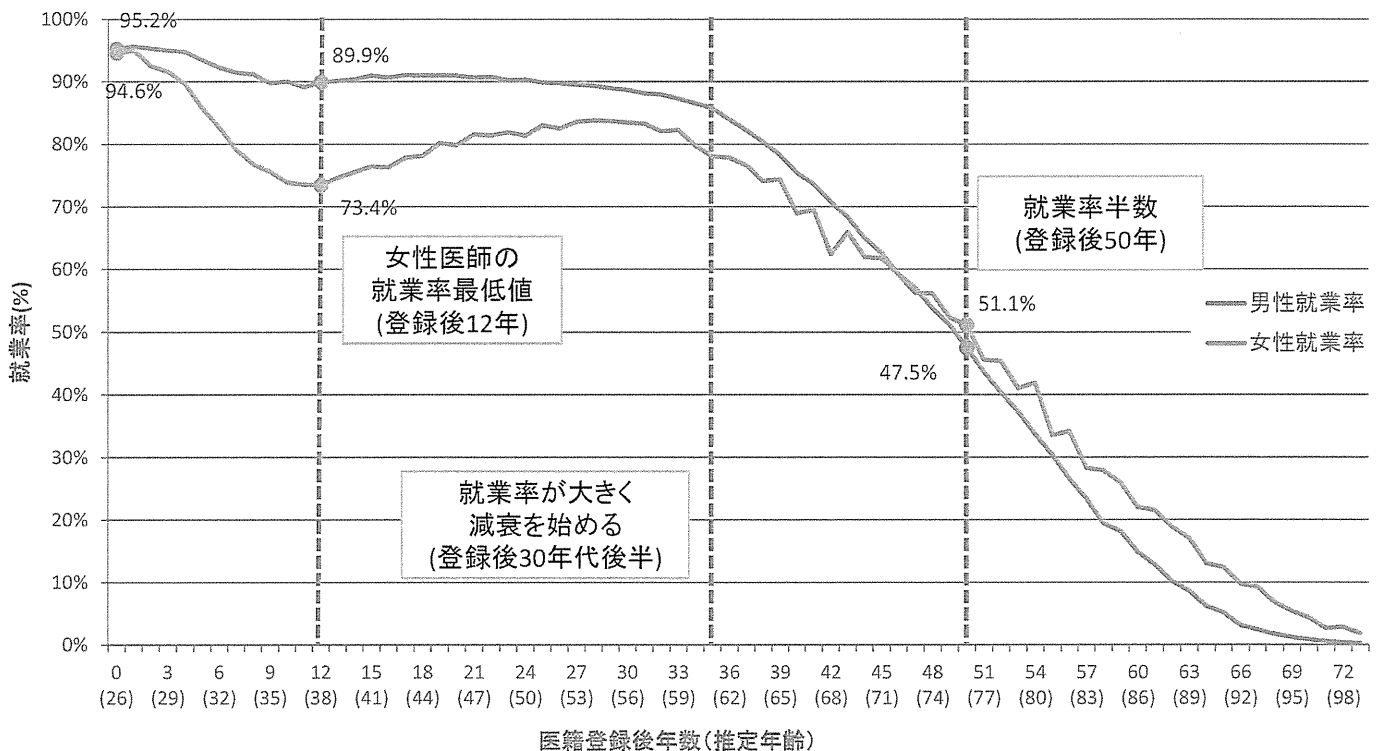
男女比率の設定について

- 以下のパラメータについては、男女別に設定している
- 将来推計分については、過去の男女別のデータから明らかな増加・減少のトレンドがないと判断し、直近10年間のデータの中央値が維持されるものとして推計している

- 受験者数男女比：男性68.2%、女性31.8% 2006年～2015年受験者
- 合格率：男性89.1%、女性92.5% 2006年～2015年受験者
- 医籍登録率：男性100.2%、女性100.1% 2006年～2015年医籍登録者
- 医籍登録後年数別生残率・就業率：就業率について次ページのグラフ参照
2004年～2014年医師・歯科医師・薬剤師調査、医籍

8

医籍登録後年数別の就業率



※2004年～2014年の医師・歯科医師・薬剤師調査（医師届出票）および厚生労働省から提供された医籍登録データを利用して作成
※推定年齢は医籍登録後年数が0年の届出票の満年齢（12月末時点）の平均値が26.8歳であることを考慮し設定

9